III　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　目的として，高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

（観点に係る状況）

函館工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第１章第１条にて本校の目的を明確に設定し(資料１－１－①－１)，「汝が夢を持て」，「大志を抱け」，「力強かれ」を校訓として掲げ，「技術者に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成する」という明確な学校の教育目的を設定している。この学校の教育目的を達成すべく，あらゆる分野で活躍できる技術者を育成できるように，養成しようとする人材像として６つの教育目標を分かり易く定めている(資料１－１－①－２)。それに基づき，準学士課程５学科を卒業することによって身に付ける学力や資質・能力が，各専門学科の教育目標として明確に定められている(資料１－１－①－３)。一方，専攻科課程においては，本校の教育目標(資料１－１－①－２)を達成すべく，専攻科課程を修了することによって身に付ける学力や能力・資質を各専攻の教育目的(資料１－１－①－４)として定め，具体的な専攻科課程の教育目標を，本校のJABEE基準に対応した教育プログラム：「複合型システム工学」教育プログラムの学習・教育目標(資料１－１－①－５)として，準学士課程との違いを明確にして定められている。

また，本校が北海道道南地域に存在する唯一の総合的な技術系高等教育機関であることから，独立行政法人国立高等専門学校機構法に則り地域貢献の重要性を認識し，学校の教育目的に「実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る」と具体的に定めている。

資料１－１－①－１　「函館工業高等専門学校　学則」（抜粋）

函館工業高等専門学校学則

昭和 37 年 4 月 1 日制定

第 1 章　本校の目的

(目的)

第1条　本校は，教育基本法の精神にのつとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(省略)

(出典　規程集　http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-syomu/reiki_int/reiki_honbun/au05700011.html)

資料１－１－①－２　「校訓・教育目的・教育目標」

本校は，「汝が夢を持て　大志を抱け　力強かれ」を校訓に掲げ，本科５年間あるいは専攻科２年間を加えた７年間の一貫した教育プログラムのもとで，我国の技術立国を支える創造力と実行力を持った実践的技術者の育成を目指しています。

本校は以下の教育目的のもとに学校運営をしています。

技術者に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成するとともに，実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る

本校は優れた技術者を育成する一方，技術相談や共同研究を通じて，地域社会や地域企業の発展に貢献したいと考えています。本校は，実践的な技術者育成と地域に根ざした学校という特徴を生かして，大学とは異なる高等教育機関を目指します。本校は，地域，日本，世界のあらゆる分野で活躍するためには，以下の能力を備えた技術者が必要と考え，その育成を教育目標としています。

- 創造力と実行力を持った技術者
- 専門技術に関する基礎知識を持った技術者
- 情報技術を活用できる技術者
- 社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者
- 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
- 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

(出典　平成 18 年度　学校要覧 p.1)

資料１－１－①－３　「各学科の教育目標」

【函館高専教育目標】

(A)	創造力と実行力を持った技術者
(B)	専門技術に関する基礎知識を持った技術者
(C)	情報技術を活用できる技術者
(D)	社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
(E)	多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
(F)	問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

【機械工学科】

1	自主的に健康維持，増進を図ることができるとともに，集団の中での役割や責任を理解し，豊かな創造力でものづくりを実践できる技術者
2	数学，自然科学および機械工学の主要分野（材料と機械の力学，エネルギーと流れ，情報と制御，加工と生産）に関する基礎知識を持ち，それを活用することができる技術者
3	機械設計，製造，計測制御，解析およびネットワークなど，専門技術に関する基礎知識を基にコンピュータを活用することができる技術者
4	地球的視野で，歴史，文化，地理，政治，経済に関する教養を持ち，倫理を理解して行動できる技術者
5	自分の考えを論理的な文書にまとめ，成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーションができる技術者
6	基礎技術に関する知識を総合的に活用し，システムの設計や問題解決に応用できる技術者

【電気電子工学科】

1	自ら考えたり議論したりすることでアイデアを創出し、ものづくりや調査研究などを計画的に遂行できる技術者
2	各種スポーツの実践を通して心身の健康の維持･増進を図ることができる技術者
3	数学、自然科学および電気電子工学に関する基礎的な知識や技術を持った技術者
4	情報処理の基礎技術を理解し、電気電子工学分野における技術的な問題解決や成果報告に役立てることができる技術者
5	国際的視野に立って歴史、文化、地理、政治･経済などを理解できる技術者
6	人間社会や地球環境に配慮した倫理を理解できる技術者
7	自分の考えおよび技術的な成果を文書や口頭で発表し、説明することができる技術者
8	基礎的な英語コミュニケーションができる技術者
9	電気電子工学分野の技術的な課題を解決するために、適正な方法を選択あるいは創造できる技術者

【情報工学科】

1	情報工学分野の実験実習を通して新たな実験やシステム設計･開発などを、自ら企画･立案･実現できる創造力豊かな技術者で、かつ自主的に健康維持･増進を図るとともに、集団の中での役割や責任を理解し行動できる技術者。
2	数学，自然科学および情報工学の基礎知識を有し、それを様々な場面で活用できる技術者
3	情報工学分野において専門技術に関する基礎知識を基に、コンピュータを活用した設計･開発やデータ処理ができる技術者
4	地球的視野に立ち，歴史･文化･地理･政治･経済に関する教養を持ち，倫理を理解して技術を適用することができる技術者
5	自分の考えを論理的な文書にまとめ，技術成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーション能力を持った技術者
6	システムを構成する技術についての基礎知識を持ち，その知識を有機的に結合して新たなシステムの設計･構築やそれを問題解決のために応用できる技術者

【物質工学科】

1	集団の中での役割や責任を理解し、豊かな創造力で物質工学科の分野の、ものづくりを実践できる技術者
2	数学、自然科学および物質工学の主要分野に関する基礎知識を有し、それを活用できる技術者
3	物質工学の専門分野にコンピュータを活用することができる技術者
4	地球的視野に立ち、歴史･文化･地理･政治･経済に関する教養を持ち、倫理を理解して技術を適用することができる技術者
5	自分の考えを論理的な文書にまとめ、技術成果をプレゼンテーションできると共に、基礎的な英語コミュニケーション能力を持った技術者
6	システムを構成する要素技術についての知識を持ち、その知識をシステムの設計･問題解決のために応用できる技術者

【環境都市工学科】

1	チームの一員としての役割と責任を理解して自主的･継続的に行動できる技術者
2	数学，自然科学や土木･環境技術などの環境都市工学に関する基礎的な知識を持ち，それを活用できる技術者
3	設計製図や卒業研究などの環境都市工学に関する技術にコンピュータを活用でき，情報処理の基本技術について理解している技術者
4	国際社会の歴史，文化，地理，政治･経済などについて理解した上で，環境都市工学の果たす役割や自然に及ぼす影響を認識して，地域社会の発展に貢献するなど，技術者としての倫理と責任を自覚して行動できる技術者
5	自分の考えを論理的な文章にまとめ，成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーションができる技術者
6	卒業研究や設計製図，創成科目を通じて，問題解決に向かって総合的な知識を動員し，関連技術を組み合わせることで具体的な結果の方向を見出すことができる技術者

(出典　平成 19 年 3 月 16 日　教員会議資料　資料 No.5-4)

その他に，同様の内容が各学科のシラバスに記載されているが省略する。

資料１－１－①－４　「専攻科課程各専攻の教育目的」

1) 生産システム工学専攻

生産システム工学専攻では，主として機械工学科，電気電子工学科および情報工学科を卒業した学生を対象に，高専の５年間の教育で修得した基礎知識を基盤として，プレゼンテーションや英語によるコミュニケーションの能力を高め，生産システムに不可欠な機械工学技術，電気電子工学技術，情報処理技術の専門性を深めること,さらにこれらの専門技術を複合させるとともに，PBL 実験やインターンシップ，特別研究などを通して実践力や解析能力を養うことによって，ロボットや情報通信システム，エネルギーシステム等の開発・設計・製造などに活かす力を備えた実践的技術者を育成することを教育目的とする。

2) 環境システム工学専攻

環境システム工学専攻では，主として物質工学科および環境都市工学科を卒業した学生を対象に，高専の５年間の教育で修得した基礎知識を基盤として，プレゼンテーションや英語によるコミュニケーションの能力を高め，環境システムに不可欠な土木・環境工学技術，化学・生物工学技術の専門性を深めること,さらにこれらの専門技術を複合させるとともに，PBL 実験やインターンシップ，特別研究などを通して実践力や解析能力を養うことによって，材料の開発や，社会基盤，リサイクルシステム等の計画・設計・施工などに活かす力を備えた実践的技術者を育成することを教育目的とする。

(出典　平成 19 年 4 月 16 日　運営委員会　資料３)

資料１－１－①－５　「複合型システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

(A) 創造力と実行力を持った技術者

(A-1)　自ら仕事を計画して継続的に実行し、まとめ上げることができる。

(A-2)　チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。

(A-3)　ものづくりのための創意工夫をすることができる。

(B) 専門技術に関する基礎知識を持った技術者

(B-1)　数学および物理や化学、生物などの自然科学の基礎知識を持っている。

(B-2)　専門分野における工業技術を理解するための基礎知識を持っている。

(B-3)　実験や実習、演習を通して専門分野の実践的な基礎技術を身につけている。

(C) 情報技術を活用できる技術者

(C-1)　情報処理を行うためのハードウエアやソフトウエアの基礎技術について理解している。

(C-2)　コンピュータを用いてデータの計算処理やグラフ化を行うことができる。

(C-3)　コンピュータを設計や製図作業に活用することができる。

(C-4)　情報の収集、整理およびプレゼンテーションに、コンピュータなどの情報技術を用いることができる。

(D) 社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者

(D-1)　国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。

(D-2)　科学技術が人間や社会、自然環境および未来の世代に与える影響を理解し、技術者の役割と責任を説明できる。

(D-3)　産業に関する地域との連携を通して、社会に貢献することの意義を理解している。

(E) 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者

(E-1)　技術的課題について自分の考えをまとめ、他者と討論できる。

(E-2)　技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。

(E-3)　技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。

(E-4)　国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。

(F) 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

(F-1)　システムを構成する要素技術についての知識を持ち、その知識をシステムの組み上げに応用できる。

(F-2)　問題解決のために複数の解決手法を考案し、それらを評価してその中から最適な解決策を示すことができる。

(F-3)　複数の分野の専門技術を組み合わせて、要求性能を満たすシステムを作り上げることができる。

※　本プログラムで学習するシステムとは，ある目的のために複数の要素技術によって構成されたものを意味し，複合型システムとは，複数の専門分野の要素技術の組み合わせで構成されたシステムを想定しています。またここでのデザインとは，目的のシステムに対して，要求を分析し，その要求を満たすために備えるべき最適な機能や形状を決定し，要素技術を組み合わせて作り上げるための具体的な手段を見出すこと，さらにはその製作までの計画を立てることを意味します。

(出典　平成 18 年度学校要覧，p.25)

（分析結果とその根拠理由）

明確な教育理念に基づいて，これからの産業社会における技術者として必要な条件を分かり易く提示し，そのような技術者を育成するための学校として６つの教育目標が定められている。また，この教育目標に基づいて，準学士課程５学科ならびに専攻科課程２専攻の教育目標がその違いを明確にして定められている。また，本校が北海道道南地域に存在する唯一の総合的な技術系高等教育機関であることから，地域貢献の重要性を認識し，学校の教育目的に「実践的研究の水準向上に努め，道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る」と具体的に定めている。

以上のことから，本校は高等専門学校としての目的を明確に定めているといえる。

観点１－１－②：　目的が，学校教育法第７０条の２に規定された，高等専門学校一般に求められる目的から，はずれるものでないか。

（観点に係る状況）

観点１－１－①であげた本校の目的および本校の教育目的は，高等専門学校創設の趣旨である「実践的技術者を養成する高等教育機関」という責務及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。また，学校教育法第70条の２には，「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」という二つの具体的な目的があるが，本校の目的ならびに本校の教育目的を達成すべく設定された学校の教育目標ならびに準学士課程５専門学科ならびに専攻科課程の教育目標は，これらとの関連を明確にして策定されている。その対応関係は次の通りである(資料１－１－②－１)。

資料１－１－②－１　学校教育法第７０条の２の目的と本校の教育目標等との対応

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
[本校の教育目標]のうち， (B) 専門技術に関する基礎知識を持った技術者	[本校の教育目標]のうち (A) 創造力と実行力を持った技術者 (C) 情報技術を活用できる技術者 (D) 社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者 (E) 多面的なコミュニケーション能力を持った技術者 (F) 問題解決のためのデザイン能力を持った技術者
[機械工学科の教育目標]のうち， ・ 数学，自然科学および機械工学の主要分野（材料と機械の力学，エネルギーと流れ，情報と制御，加工と生産）に関する基礎知識を持ち，それを活用することができる技術者	[機械工学科の教育目標]のうち， ・ 自主的に健康維持，増進を図ることができるとともに，集団の中での役割や責任を理解し，豊かな創造力でものづくりを実践できる技術者 ・ 機械設計，製造，計測制御，解析およびネットワークなど，専門技術に関する基礎知識を基にコンピュータを活用することができる技術者 ・ 地球的視野で，歴史，文化，地理，政治，経済に関する教養を持ち，倫理を理解して行動できる技術者 ・ 自分の考えを論理的な文書にまとめ，成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーションができる技術者 ・ 基礎技術に関する知識を総合的に活用し，システムの設計や問題解決に応用できる技術者
[電気電子工学科の教育目標]のうち， ・ 数学、自然科学および電気電子工学に関する基礎的な知識や技術を持った技術者	[電気電子工学科の教育目標]のうち， ・ 自ら考えたり議論したりすることでアイデアを創出し、ものづくりや調査研究などを計画的に遂行できる技術者 ・ 各種スポーツの実践を通して心身の健康の維持・増進を図ることができる技術者 ・ 情報処理の基礎技術を理解し、電気電子工学分野における技術的な問題解決や成果報告に役立てることができる技術者 ・ 国際的視野に立って歴史、文化、地理、政治・経済などを理解できる技術者 ・ 人間社会や地球環境に配慮した倫理を理解できる技術者 ・ 自分の考えおよび技術的な成果を文書や口頭で発表し、説明することができる技術者 ・ 基礎的な英語コミュニケーションができる技術者 ・ 電気電子工学分野の技術的な課題を解決するために、適正な方法を選択あるいは創造できる技術者
[情報工学科の教育目標]のうち， ・ 数学，自然科学および情報工学の基礎知識を有し、それを様々な場面で活用できる技術者	[情報工学科の教育目標]のうち， ・ 情報工学分野の実験実習を通して新たな実験やシステム設計・開発などを、自ら企画・立案・実現できる創造力豊かな技術者で、かつ自主的に健康維持・増進を図るとと も

	に、集団の中での役割や責任を理解し行動できる技術者 ・ 情報工学分野において専門技術に関する基礎知識を基に、コンピュータを活用した設計・開発やデータ処理ができる技術者 ・ 地球的視野に立ち，歴史・文化・地理・政治・経済に関する教養を持ち，倫理を理解して技術を適用することができる技術者 ・ 自分の考えを論理的な文書にまとめ，技術成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーション能力を持った技術者 ・ システムを構成する技術についての基礎知識を持ち，その知識を有機的に結合して新たなシステムの設計・構築やそれを問題解決のために応用できる技術者	
[物質工学科の教育目標]のうち， ・ 数学、自然科学および物質工学の主要分野に関する基礎知識を有し、それを活用できる技術者	[物質工学科の教育目標]のうち， ・ 集団の中での役割や責任を理解し、豊かな創造力で物質工学科の分野の、ものづくりを実践できる技術者 ・ 物質工学の専門分野にコンピュータを活用することができる技術者 ・ 地球的視野に立ち、歴史・文化・地理・政治・経済に関する教養を持ち、倫理を理解して技術を適用することができる技術者 ・ 自分の考えを論理的な文書にまとめ、技術成果をプレゼンテーションできると共に、基礎的な英語コミュニケーション能力を持った技術者 ・ システムを構成する要素技術についての知識を持ち、その知識をシステムの設計・問題解決のために応用できる技術者	
[環境都市工学科の教育目標]のうち， ・ 数学，自然科学や土木・環境技術などの環境都市工学に関する基礎的な知識を持ち，それを活用できる技術者	[環境都市工学科の教育目標]のうち， ・ チームの一員としての役割と責任を理解して自主的・継続的に行動できる技術者 ・ 設計製図や卒業研究などの環境都市工学に関する技術にコンピュータを活用でき，情報処理の基本技術について理解している技術者 ・ 国際社会の歴史，文化，地理，政治・経済などについて理解した上で，環境都市工学の果たす役割や自然に及ぼす影響を認識して，地域社会の発展に貢献するなど，技術者としての倫理と責任を自覚して行動できる技術者 ・ 自分の考えを論理的な文章にまとめ，成果をプレゼンテーションできるとともに，基礎的な英語コミュニケーションができる技術者 ・ 卒業研究や設計製図，創成科目を通じて，問題解決に向かって総合的な知識を動員し，関連技術を組み合わせることで具体的な結果の方向を見出すことができる技術者	
[専攻科課程の教育目標]のうち， ・ 数学および物理や化学、生物などの自然科学の基礎知識を持っている。(B-1) ・ 専門分野における工業技術を理解するための基礎知識を持っている。(B-2) ・ 実験や実習、演習を通して専門分野の実践的な基礎技術を身につけている。(B-3)	[専攻科課程の教育目標]のうち， ・ 自ら仕事を計画して継続的に実行し、まとめ上げることができる。(A-1) ・ チームの一員としての役割と責任を理解して自主的に行動できる。(A-2) ・ ものづくりのための創意工夫をすることができる。(A-3) ・ 情報処理を行うためのハードウエアやソフトウエアの基礎技術について理解している。(C-1) ・ コンピュータを用いてデータの計算処理やグラフ化を行うことができる。(C-2) ・ コンピュータを設計や製図作業に活用することができる。(C-3) ・ 情報の収集、整理およびプレゼンテーションに、コンピュータなどの情報技術を用いることができる。(C-4) ・ 国際社会の多様な歴史的背景や文化的価値観を理解できる。(D-1)	

	・ 科学技術が人間や社会、自然環境および未来の世代に与える影響を理解し、技術者の役割と責任を説明できる。(D-2) ・ 産業に関する地域との連携を通して、社会に貢献することの意義を理解している。(D-3) ・ 技術的課題について自分の考えをまとめ、他者と討論できる。(E-1) ・ 技術的成果を正確な日本語を用いて論理的な文書にまとめることができる。(E-2) ・ 技術的成果を的確にプレゼンテーションすることができる。(E-3) ・ 国際的なコミュニケーションを行うための基礎的な英語理解力および表現力を持っている。(E-4) ・ システムを構成する要素技術についての知識を持ち、その知識をシステムの組み上げに応用できる。(F-1) ・ 問題解決のために複数の解決手法を考案し、それらを評価してその中から最適な解決策を示すことができる。(F-2) ・複数の分野の専門技術を組み合わせて、要求性能を満たすシステムを作り上げることができる。(F-3)

(出典　平成 19 年 4 月 16 日　運営委員会　資料６)

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的および本校の教育目的は，高等専門学校設立の趣旨ならびに学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されている。また，学校の教育目標，準学士課程ならびに専攻科課程の教育目標は，学校教育法上の高等専門学校の目的との対応を明確にした上で策定している。

以上のことから，本校の目的，教育目的，ならびにそれを実現すべく設定された教育目標は，学校教育法第７０条の２に定めにはずれるものではない。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的・教育目的・教育目標は，資料１－２－①－１に示すように種々の資料に掲載し，それらを配付し，かつ，本校のすべての構成員(非常勤講師を含む教職員ならびに準学士課程および専攻科課程の学生)に対して，本校の教育目標が記載された携帯用カード(資料１－２－①－２)を配付することにより，本校の目的等の周知を図っている。また，教員に対しては，教員会議にて目的等が知らしめられており，また，教員会議に出席している課長補佐以上の職員から，教員会議で説明された事項が担当部署の職員に対して説明されている。さらに，準学士課程の学生に対しては，教育システム点検検討部会の主導で，学級ごとに本校の目的等の説明会が実施されており(資料１－２－①－３)，専攻科課程の学生に対しては，年度初めのガイダンス時に説明がなされている(資料１－２－①－４)。なお，教員の採用時には，「新任教員に対する説明会」を実施し，各種委員会の説明とともに本校の教育目標の周知を図っており(資料１－２－①－５)，準学士課程の新入学生に対しては，入学直後に実施される「宿泊研修」において，教務主事より本校の目的等を説明している(資料１－２－①－６)。一方，専攻科課程の新入学生に対しては，「(受験前の)専攻科説明会」や，入学式直後の「新入学生ガイダンス」において，専攻科長より本校の目的等を説明したりするなど，積極的に目的の周知を図る取組を実施している(資料１－２－①－７)。

平成 19 年２月には，非常勤講師を含む本校教職員，準学士課程および専攻科課程の学生に対して，目的の周知状況についてのアンケート調査を実施し，その結果より本校の構成員(非常勤講師を含む教職員ならびに準学士課程および専攻科課程のすべての学生)に本校の目的が知らしめられていることがわかる(資料１－２－①－８～１１)。

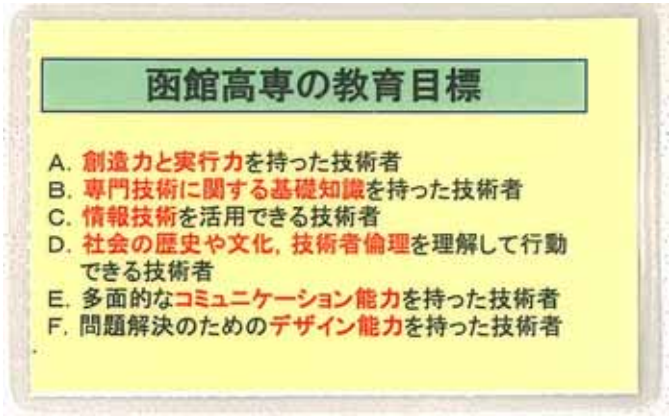
資料１－２－①－１　「本校の種々の資料等一覧」

資料	配布先	本校の目的(学則)	教育目的	成果等		
				学校の教育目標(A～F)	準学士課程(各学科の教育目標)	専攻科課程(複合型システム工学教育プログラムとして)
学則	―――	○	×	×	×	×
H17 自己点検書	全教員	×	○	○	×	○
学校要覧（平成 18 年度版）	全教職員 道内大学 地域企業 など	×	○	○	×	○
学校案内	全教員 中学生 など	×	○	○	×	×
準学士課程募集要項	希望者	×	×	×	×	×
専攻科課程募集要項	希望者	×	×	×	×	○
専攻科パンフレット	希望者	×	×	○	×	×
各学科シラバス	全教職員 全学生	×	×	○	○	○
学生生活の手引き	全教職員 全学生	○	×	×	×	×
本校 Web site	―――	○ 規則集のページ	○	○	○各学科のページ	○ JABEE のページ

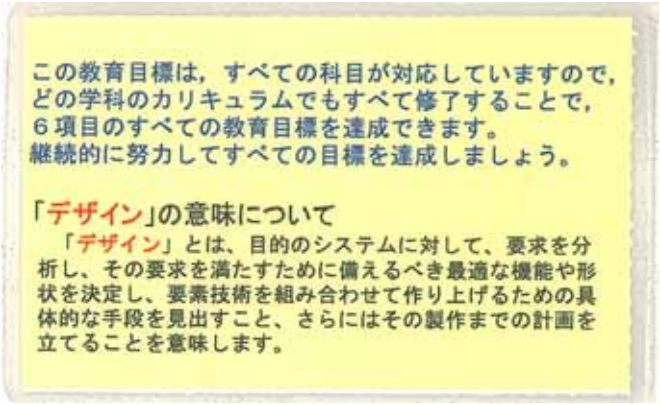
○：記載あり，×：記載なし

(出典　平成 19 年 1 月 19 日　機関別認証評価対応部会資料)

資料１－２－①－２　「すべての構成員に配布している携帯用カード」



(表面)



(裏面)

(出典　携帯用カード)

資料１－２－①－３　「各学級における説明会の実施状況」

資料1－31

平成 18 年 5 月 17 日

本科学科主任
本科クラス担任
各位

JABEE 対応「複合型システム工学」プログラムに関する学生への周知のお願い

運営委員会教育システム点検検討部会　森田　孝
専攻科長（プログラム責任者）　石井良博

日頃より、JABEE 受審準備、教育改善にご協力いただきありがとうございます。本年度は JABEE 受審を目標として、全教職員のご協力の下、本校の教育システムの改善に取り組んでいるところであります。

今回、年度が改まり、4 年生が新プログラム生として加わったこと、また。以下に示す背景から、本科 4、5 年に加え、1～3 年生にも函館高専における JABEE への取り組み、外部審査についての周知徹底を図ることとしました。

1．JABEE 基準 1 により、2006 年度版「複合型システム工学」学習・教育目標をプログラムに在籍する学生に「2005 年度版学習・教育目標」を周知する必要がある。
2．昨年行った本科 4 年～専攻科の学生へのアンケート調査で JABEE に関する説明が足りないとの要望があった。
3．高専新聞の記事に認証評価についての学生に対する情報提供が不足しているとの指摘があった。
4．低学年の学生にも JABEE を受審することに関して情報提供する必要がある。

お忙しい時期とは思いますが、以下の要領で説明会を学科毎にクラス単位で実施して下さるようお願い申し上げます。

なお、実施結果を学生に周知した証拠として自己点検書の裏付資料に使用するため、誠に勝手ながら、中間試験前に実施して下さいますよう重ねてお願いします。

資料１－31

平成18年度　　JABEE審査、JABEE学習・教育目標、機関別認証審査に関する本科学生への周知状況

	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
1年	5月22日	5月25日	5月30日	5月23日	5/23, 5/25
	菅(担任) 浜(JABEE)	清野(担任) 木村(主任) 森田(JABEE)	宮崎(担任,JABEE)	竹花(担任) 鹿野(JABEE)	佐藤(友)(担任) 平沢(JABEE) 川口(JABEE)
	49 名/ 50 名	51 名/ 52 名	40 名/ 41 名	44 名/ 44 名	43 名/ 43 名
2年	5月29日	6月1日	5月29日	5月26日	5月30日
	田畑(担任) 古俣(JABEE)	白田(担任) 森田(JABEE)	鳴海(担任) 後藤(JABEE)	四宮(担任) 伊藤(JABEE) 高橋直(副担任)	長澤(担任) 渡辺(JABEE) 佐々木
	43 名/ 44 名	37 名/ 37 名	39 名/ 42 名	28 名/ 41 名	44 名/ 45 名
3年	6月2日	5月24日	5月22日	5月19日	5月31日
	古俣(担任) 川上(JABEE)	森谷(担任) 木村(主任) 柳谷(JABEE)	後藤(担任,JABEE)	伊藤(担任,JABEE)	平沢(担任、JABEE) 川口(JABEE)
	39 名/ 39 名	41 名/ 41 名	41 名/ 42 名	46 名/ 48 名	41 名/ 45 名
4年	5月29日	5月24日	6月2日	5月29日	5月31日
	切明(主任、担任) 川上(JABEE)	木村(主任、担任) 柳谷(JABEE)	佐藤(恵)(担任) 国分(主任) 太刀川(JABEE)	鹿野(担任、JABEE) 水上(主任)	渡辺(担任、JABEE) 蓮澤(主任)
	44 名/ 45 名	46 名/ 48 名	41 名/ 41 名	37 名/ 44 名	39 名/ 40 名
5年	5月19日	5月25日	5月31日	6月9日	6月6日
	木村(担任) 切明(主任) 川上(JABEE)	柳谷(担任、JABEE) 湊(JABEE) 森谷	太刀川(担任,JABEE) 国分(主任)	日野(担任) 水上(主任) 鹿野(JABEE)	藤原(担任) 蓮澤(主任) 渡辺(JABEE)
	40 名/ 43 名	38 名/ 39 名	28 名/ 27 名	40 名/ 42 名	39 名/ 39 名
合計	215 名/ 221 名	213 名/ 217 名	184 名/ 193 名	195 名/ 217 名	206 名/ 212 名
	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]

全体集計
1013 名/ 1060 名
[redacted]

(出典　ＪＡＢＥＥ自己点検書　資料 1-31)

資料１－２－①－４　「専攻科　学年開始時の履修ガイダンス(プログラム)」

○　平成１９年４月９日（月）　９：００～
専攻科棟ゼミナール室３　生産システム工学専攻１年
ゼミナール室４　環境システム工学専攻１年

【専攻ごとのガイダンス】　担当：祐延委員
（生産システム工学専攻１年担任）
清野（晃）委員
（環境システム工学専攻１年担任）

１．科目の選択について（JABEE 等との対応）
・・・・・資料，シラバス，学習・教育目標と科目の対応表
２．学習履歴書，学習・教育目標達成度評価確認表の作成
・・・　学習履歴書，学習・教育目標達成度評価確認表，
４，５学年成績表
３．履修の手続きについて　・・・・・・・・・・　履修科目届け
４．本科科目の再評価について
・・・・　補習指導・再評価申請書
５．特別実験について
６．特別研究指導教員（複数）の決定までの過程について
７．インターンシップについて
８．身体測定について　・・・・・・・・・・・・・　身体測定票
９．その他

平成１９年度函館高専専攻科ガイダンス（第２学年）

○　平成１９年４月１１日（水）　　８：５０～
　専攻科棟ゼミナール室１　生産システム工学専攻２年
　　ゼミナール室２　環境システム工学専攻２年

【専攻ごとのガイダンス】　担当：藤原（孝）副専攻長
（生産システム工学専攻２年担任）
大久保副専攻長
（環境システム工学専攻２年担任）

１．シラバスの説明
２．「複合型システム工学」教育プログラムの学習・教育目標の説明
３．科目の履修について
　・　シラバス，学習・教育目標と科目の対応表，
　　学習・教育目標達成度評価確認表，履修科目届け
４．未来大との単位互換について　・・・・・・・・　資料
５．学位授与申請について　・・・・　新しい学士への途
６．表彰について
　優秀学生賞：修了までの期間成績が特に優秀で且つ他の学生の模範となったと認められる者
　特別研究プレゼンテーション優秀賞：特別研究発表会の評価が最も高い者
　特別賞：特筆に値する努力・貢献等のあった者及び団体
７．時間割
８．年間行事予定
９．教科書　・・・・・・・・　使用教科書一覧
10．身体測定について　・・・・・・・・・・　身体測定票
11．その他

(出典　平成 19 年度専攻科　学年開始時の履修ガイダンス(プログラム))

資料１－２－①－５　「新任教員に対する説明会について(開催通知)」

平成１８年４月３日

新任教員　各位
関係　各位

教務主事
学生主事
寮務主事
JABEE 対応部会長

新任教員に対する説明会について

本校へのご着任を心から歓迎いたします。
さて、本校に１日も早く慣れていただくために、標記の会を計画いたしました。お忙しい中とは思いますが、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

１．日　時　　平成１８年４月５日（水）午後３時００分～　　（入学式の日）

２．場　所　　共用会議室

３．内　容
(1) 学校長挨拶
(2) 各委員会説明
①教務委員会関係説明（40 分程度）
②学生委員会関係説明（20 分程度）
③JABEE 関係説明　（30 分程度）

なお、所要時間は９０分程度を予定しています。
寮務委員会関係の説明は後程改めてご案内します。
平成１７年度の「授業計画書」と「学生生活の手引き」をご持参下さい。

＃(2)①教務委員会関係説明のなかで，本校の教育目標に関する説明がなされている

(出典　平成 18 年度新任教員に対する説明会の開催通知)

資料１－２－①－６　「準学士課程の入学生に対する宿泊研修会(開催通知)」

平成１８年度　新入生宿泊研修プログラム

第１日　４月６日（木）	
8:40	集合（各ホームルーム）
8:50	高専出発
10:00	ホテル到着 入室
10:50	全体研修① ・研修概要説明 ・校長講話 ・学習に関すること
11:40	移動
11:50	昼食・休憩
12:35	全体研修② ・学校生活に関すること ・学生寮に関すること
13:15	休憩
13:20	全体研修③ ・相談室に関すること
14:05	全体研修④ ・校歌練習 ・校訓と教育目標の指導
14:30	移動・休憩
14:40	学級別研修（ＨＲの集い） ・自己紹介 ・質疑応答
16:00	休憩・移動
16:20	レクリェーション ・クラス対抗ドッヂボール
17:50	移動・休憩
18:30	夕食
19:10	自由時間 ・入　浴（～ 21:30）
23:00	消灯・就寝

第２日　４月７日（金）	
7:00	起床・洗面
7:30	朝食（機械7:30、電気7:40、情報7:50 物質8:00、環都8:10）
9:20	移動
9:30	学科別研修 ・各学科の内容に関するガイダンス ・今後の修学上の諸説明等 ・レポート作成
10:30	学科別研修終了・移動
10:40	部屋後片付け
11:00	点呼・集合（ホテル玄関前）
11:10	ホテル出発
12:20	高専到着 ・解散式　（学生玄関前）
12:30	解散

(出典　平成 18 年度「宿泊研修」プログラム)

資料１－２－①－７　「専攻科課程への進学説明会(抜粋)および新入生用ガイダンス資料」

平成19年4月20日

専攻科説明会

函館高専専攻科　平成16年4月設置
専攻科棟完成　平成18年4月

1

函館工業高等専門学校　専攻科

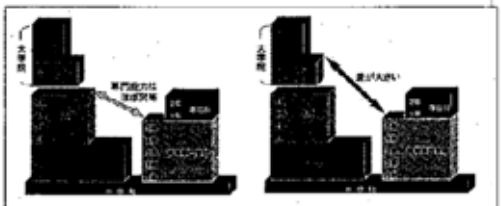
本科（高専5年間）　専攻科（2年）

機械工学科
電気電子工学科
情報工学科
→ 生産システム工学専攻（定員　12名）
平成19年度入学生　19名

物質工学科
環境都市工学科
→ 環境システム工学専攻（定員　8名）
平成19年度入学生　10名

2

高学歴化（大学院進学者の増加）による影響 ➡ 専攻科の必要性



10年以上前
大学院への進学者が少ない
ほとんどの技術者が大学4年卒業
➡
最近
大学院への進学率が半分以上
多くの技術者が大学院修士課程修了

高専卒業者と大学卒とほぼ同等の仕事

大卒以上と高専卒業生を分ける企業が増加

専攻科を修了すると

大学卒業の資格　学位（学士）を取得できる

☆　大学卒業の資格で就職
高専卒業よりも、就職先・業務内容の選択の範囲が広い
大学編入・学部卒業よりも、高い実践的能力

☆　大学院への進学
大学編入学よりも広き門

高専卒業に大学学部卒業と同じレベル
学部卒業で就職するなら、進学の意味なし

4

専攻科修了生は JABEE認定

☆　大学卒業生に対する社会の要求
水準を満たす技術者教育
☆　技術士補（国家資格）
技術士の第一次試験が免除
☆　国際的に通用する資格
（ワシントン・アコード）
☆　就職にも有利

5

専攻科を卒業すると

「複合型システム工学」教育プログラムを修了

実践的な能力を持つ，次のような技術者を育てます

A．創造力と実行力を持った技術者
B．専門技術に関する基礎知識を持った技術者
C．情報技術を活用できる技術者
D．社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
E．多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
F．問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

6

平成１９年度函館高専専攻科ガイダンス（新入学生）

○　平成１９年４月６日（金）　入学式終了後（１１時～）
　　専攻科棟ゼミナール室３

【新入学生全員へのガイダンス】　担当：石井専攻科長

１．専攻科長挨拶
２．シラバスの説明
　・専攻科の概要
　・「複合型システム工学」教育プログラムおよび学習・教育目標の説明
　・学位取得
　・修了要件、進級要件
　・単位の修得（試験、欠課）
　・卒業後の進路
　・年間行事予定
３．未来大との単位互換について　・・・・・・・・資料
４．表彰について
　優秀学生賞：修了までの期間成績が特に優秀で且つ他の学生の模範となったと認められる者
　特別研究プレゼンテーション優秀賞：特別研究発表会の評価が最も高い者
　特別賞：特筆に値する努力・貢献等のあった者及び団体
５．時間割
６．教科書　・・・・・・・・使用教科書一覧
７．施設について　・・・・・・・・専攻科棟平面図
８．学生会行事への参加（体育祭，高専祭，冬季スポーツ大会）
９．その他
※　必修科目の教科書販売、集合写真撮影

(出典　平成 19 年度専攻科課程への進学説明会および新入生用ガイダンス資料)

資料１－２－①－８　「教職員に対するアンケート」(抜粋)

平成 19 年 2 月 5 日

教職員および非常勤講師の皆様

アンケート調査のお願い

機関別認証評価対応部会　部会長　森田

教職員，および非常勤講師の皆様におかれましては，学年末に近づき何かとお忙しいことと思います。

さて，すでにご承知の通り本校は今年度に(独)大学評価・学位授与機構から，機関別認証評価の審査を受ける予定です。その際，本校の構成員である教職員，非常勤講師の皆様における次の項目の認知度を調査する必要があり，今回，アンケート調査を実施させていただくことになりました。ご多忙のところお手数をおかけいたしますが，よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

- 本校の目的，教育方針，教育目標について
- 本校の入学者アドミッション・ポリシーについて
- シラバスの活用について(教員(非常勤講師を含む)のみ)

アンケートの実施・回収方法

2 月 16 日までにご記入の上，「認証評価用メールボックス」まで提出してください。

なお，本アンケート調査に関するご質問・ご意見等がございましたら，機関別認証評価対応部会長(電気電子工学科　森田)もしくは，各学科から選出されている機関別認証評価対応部会員にお気軽にお尋ね下さい。

回答者：　教員　職員　非常勤講師　(該当する項目に○印を付けてください)

I．本校の目的，教育方針，教育目標について

I-1. 本校は，下記の目的を掲げて教育を行っています。このことを知っていますか？（該当する項目に○印を付けて下さい，以下同様）

（本校の目的）
本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(1) 知っている　(2) 知らない

I-2. 質問 I-1 で(1)と答えた方にお伺いします。この目的がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

A：シラバス　B：学校案内　C：学校要覧　D：函館高専ホームページ　E：学生生活の手引き

F：その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

I-3. 本校では，下記の教育目的のもとに学校運営を行っています。このことを知っていますか？

技術者に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成するとともに，実践的研究の水準向上に努め，道南唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。

(1) 知っている　　(2) 知らない

I-4. 質問 I-3 で(1)と答えた方にお伺いします。この「本校の教育目的」がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

A：シラバス　B：学校案内　C：学校要覧　D：函館高専ホームページ　E：学生生活の手引き

F：その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

I-5. 本校では，下記の教育目標(学校の教育目標)を掲げています。このことを知っていますか？

A．創造力と実行力をもった技術者 B．専門技術に関する基礎知識を持った技術者 C．情報技術を活用できる技術者 D．社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者 E．多面的なコミュニケーション能力を持った技術者 F．問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

(1) 知っている　　(2) 知らない

I-6. 質問 I-5 で(1)と答えた方にお伺いします。この「学校の教育目標」がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

A：シラバス　B：学校案内　C：学校要覧　D：函館高専ホームページ　E：学生生活の手引き

F：その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

I-7. さらに本校では，「本科卒業時，または専攻科修了時に身につける学力や資質・能力等(学科等の教育目標)」を，各学科もしくは専攻科毎に個別に定めています。このことを知っていますか？

(1) 知っている　　(2) 知らない

I-8. 質問 I-7 で(1)と答えた方にお伺いします。この「学科等の教育目標」がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

A：シラバス　B：学校案内　C：学校要覧　D：函館高専ホームページ　E：学生生活の手引き

F：その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

(出典　機関別認証評価対応部会アンケート(抜粋))

資料１－２－①－９　「準学士課程および専攻科課程の学生に対するアンケート」(抜粋)

平成 19 年 2 月 5 日

担任各位

アンケート調査のお願い

機関別認証評価対応部会　部会長　森田

担任の先生におかれましては，学年末に近づき何かとお忙しいことと思います。

さて，すでにご承知の通り本校は本年６月に(独)大学評価・学位授与機構から，機関別認証評価の審査を受ける予定です。その際，本校の構成員である学生における次の項目の認知度を調査する必要があり，今回，学級担任の先生を通して，アンケート調査を実施させていただき，簡単な集計をお願いしたく，何卒ご協力くださいますようお願いいたします。

・　本校の目的，教育方針，教育目標について
・　本校の成績評価等について

アンケートの実施・回収・集計・提出方法(2 月 16 日までの実施をお願いいたします)

本科の学生：

実施・回収：担任の先生の指示のもと，アンケートの実施・回収をお願いします。

集計：別紙の集計用紙に人数をご記入下さい。

提出：集計用紙および回収したアンケート用紙をクラス毎にまとめて，封筒に入れ，2 月 16 日までに，電気電子工学科 三島 のメールボックスまで提出してください。

専攻科の学生：

実施・回収：2 月 7 日の特別研究発表会において，専攻科長の石井先生の指示のもと，アンケートの実施・回収をお願いします。

集計：クラス毎に別紙の集計用紙に人数をご記入下さい。

提出：集計用紙および回収したアンケート用紙をクラス毎にまとめて，封筒に入れ，2 月 16 日までに，電気電子工学科 三島 のメールボックスまで提出してください。

なお，本アンケート調査に関するご質問・ご意見等がございましたら，機関別認証評価対応部会長(電気電子工学科　森田)もしくは，各学科から選出されている機関別認証評価対応部会員にお気軽にお尋ね下さい。

Ⅰ．本校の目的，教育方針，教育目標について

Ⅰ．本校の目的，教育方針，教育目標について

Ⅰ-1．本校は，下記の目的を掲げて教育を行っています。このことを知っていますか？（該当する項目に○印を付けて下さい，以下同様）

（本校の目的）
本校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(1) 知っている　　(2) 知らない

Ⅰ-2．質問 Ⅰ-1 で(1)と答えた方にお伺いします。この目的がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

A：シラバス　B：学校案内　C：学校要覧　D：函館高専ホームページ　E：学生生活の手引き
F：その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

Ⅰ-3．本校では，下記の教育目的のもとに学校運営を行っています。このことを知っていますか？

技術者に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成するとともに，実践的研究の水準向上に努め，道南唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。

(1) 知っている　　(2) 知らない

Ⅰ-4．質問 Ⅰ-3 で(1)と答えた方にお伺いします。この「本校の教育目的」がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

A：シラバス　B：学校案内　C：学校要覧　D：函館高専ホームページ　E：学生生活の手引き
F：その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

Ⅰ-5．本校では，下記の教育目標(学校の教育目標)を掲げています。このことを知っていますか？

A．創造力と実行力をもった技術者
B．専門技術に関する基礎知識を持った技術者
C．情報技術を活用できる技術者
D．社会の歴史や文化，技術者倫理を理解して行動できる技術者
E．多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
F．問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

(1) 知っている　　(2) 知らない

Ⅰ-6．質問 Ⅰ-5 で(1)と答えた方にお伺いします。この「学校の教育目標」がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

A：シラバス　B：学校案内　C：学校要覧　D：函館高専ホームページ　E：学生生活の手引き
F：その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

I-7. さらに本校では，「本科卒業時，または専攻科修了時に身につける学力や資質・能力等(学科等の教育目標)」を，各学科もしくは専攻科毎に個別に定めています。このことを知っていますか？

(1) 知っている　　(2) 知らない

I-8. 質問 I-7 で(1)と答えた方にお伺いします。この「学科等の教育目標」がどこに書かれているか知っていますか？知っていれば，どこに書いてあるか以下の項目からお選びください。（複数回答でかまいません）

A：シラバス　　B：学校案内　　C：学校要覧　　D：函館高専ホームページ　　E：学生生活の手引き

F：その他（印刷物等をご記入下さい：　　）

I-9. 上記の学校の目的や教育目標について，入学時のガイダンスやホームルーム活動などで説明を受けたことはありますか？

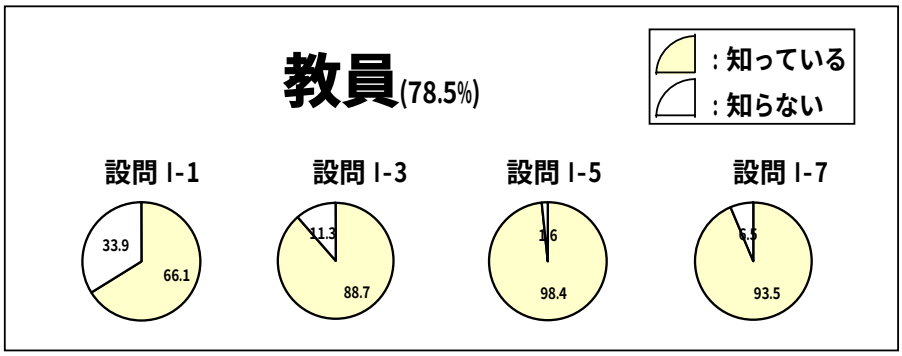
(1) ある　　(2) ない，または覚えていない

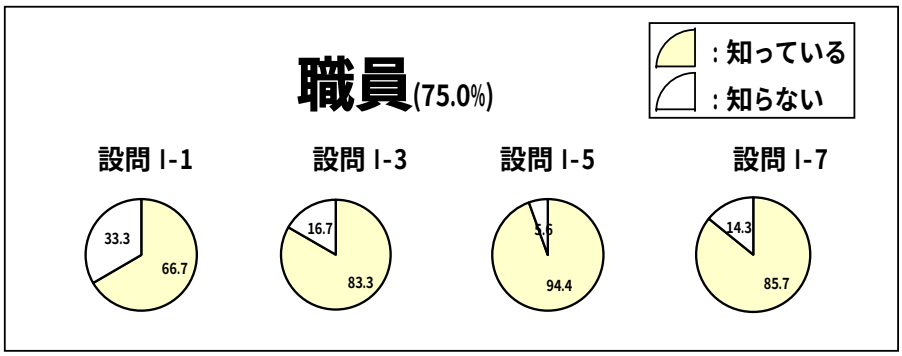
I-10.　上記の学校の目的や教育目標について，知らない場合には，担任や身近な先生から教えてもらえますか？

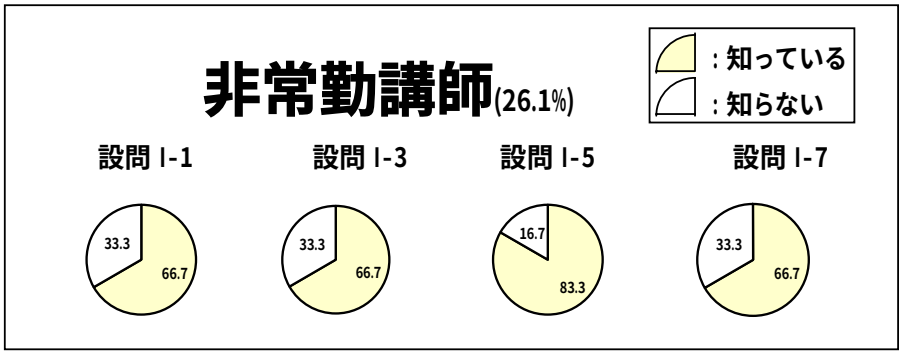
(1) 教えてもらえる　　(2) 教えてもらえない

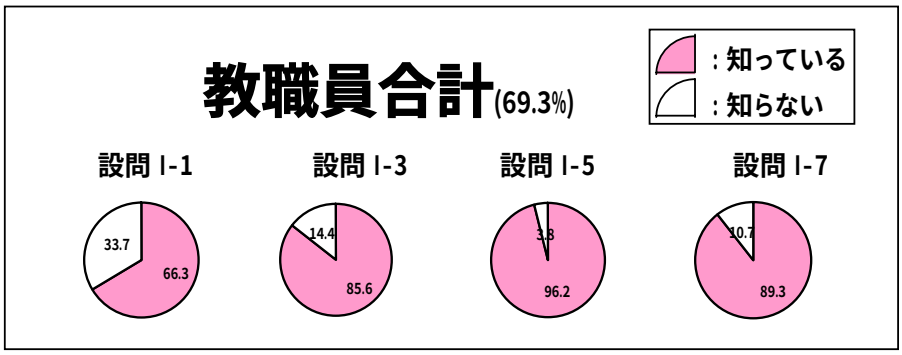
資料１－２－①－１０　「教職員に対するアンケート結果」

項目Ⅰ：本校の目的・教育目的・教育目標





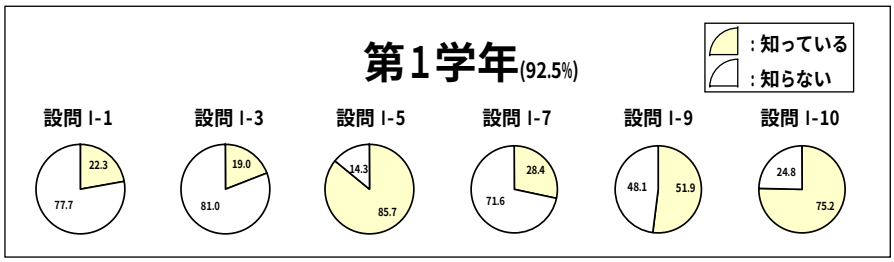


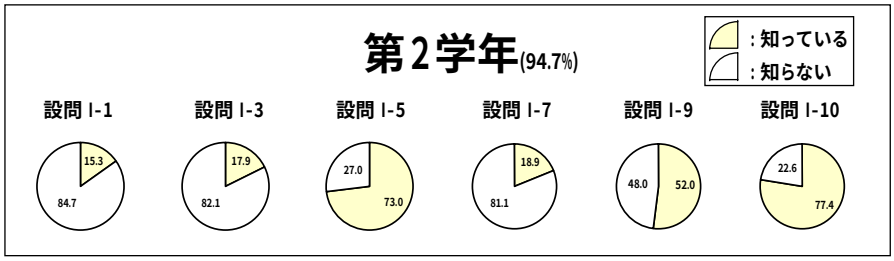


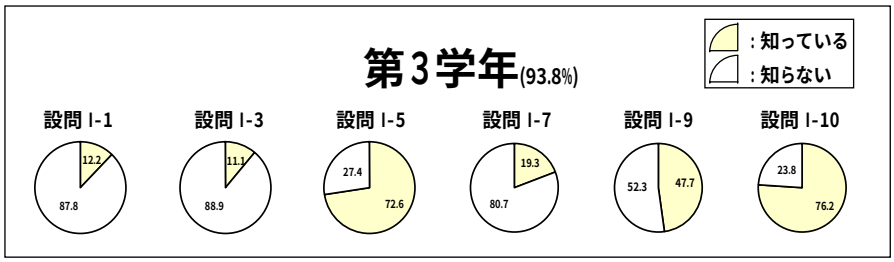
(出典　機関別認証評価対応部会アンケート結果)

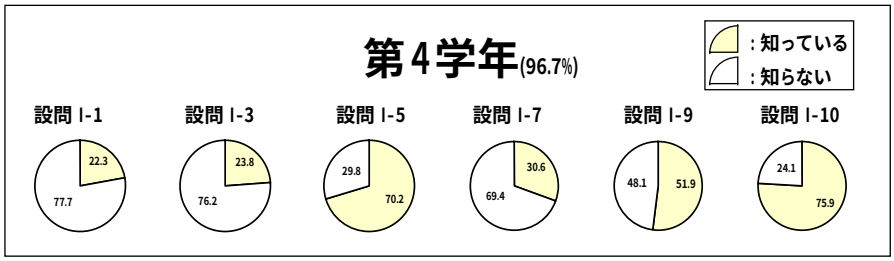
資料１－２－①－１１　「準学士課程および専攻科課程の学生に対するアンケート結果」

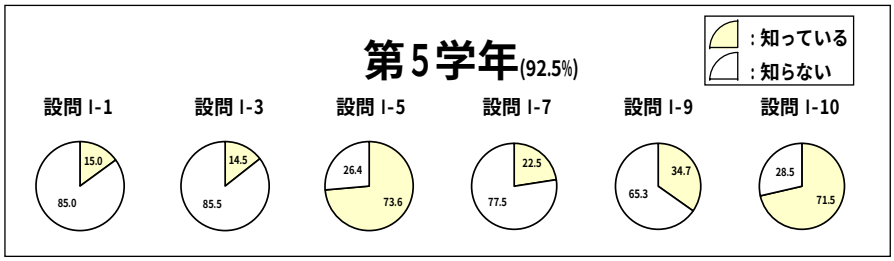
項目Ⅰ:本校の目的･教育目的･教育目標等

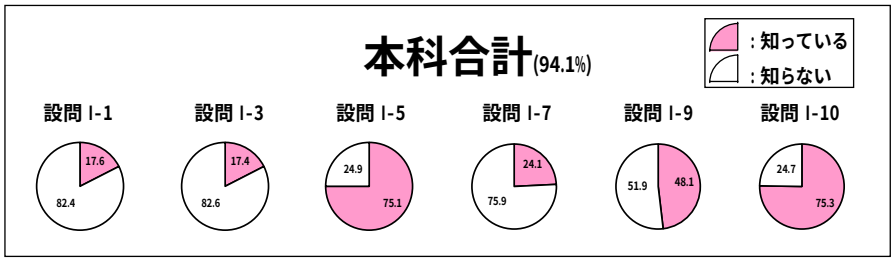


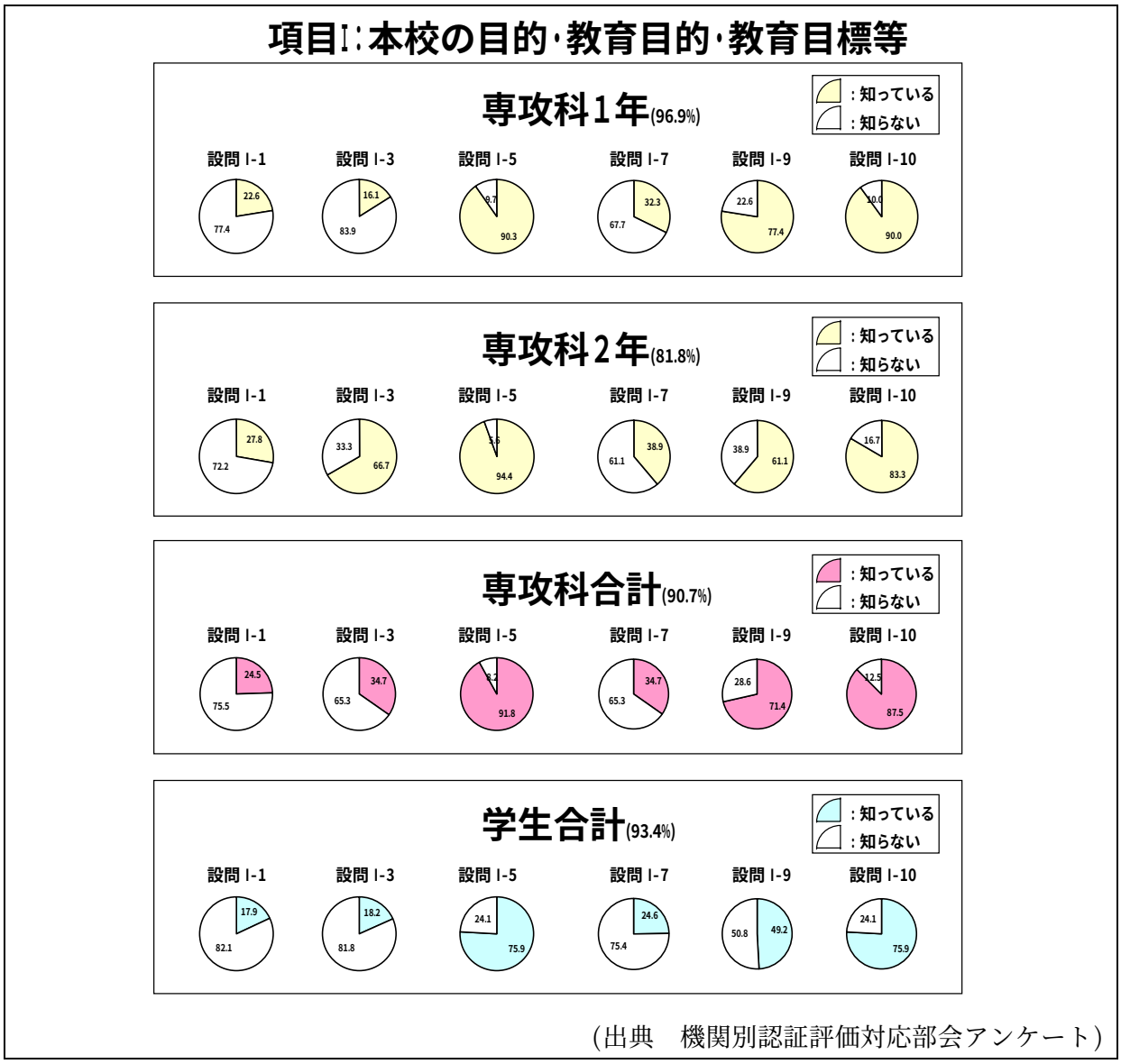












（出典　機関別認証評価対応部会アンケート）

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的等を掲載した学校要覧やシラバスを教職員ならびに準学士課程および専攻科課程の学生に配付することにより目的の周知を図る取組がなされているほか，新任教員に対しては赴任時の説明会を実施していたり，本校のすべての構成員に対して携帯用カードを配付するなど，また，準学士課程や専攻科課程の新入学生に対して目的を説明する機会を設けるなど，学校の目的を周知するための取組は十分になされている。また，目的の周知状況を把握するためのアンケート調査において，一部の設問で「知らない」と答えた教職員や準学士課程および専攻科課程の学生がいるものの，おおむね知っていると分析できる。

以上のことから，本校では，目的が，学校の構成員におおむね周知されている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

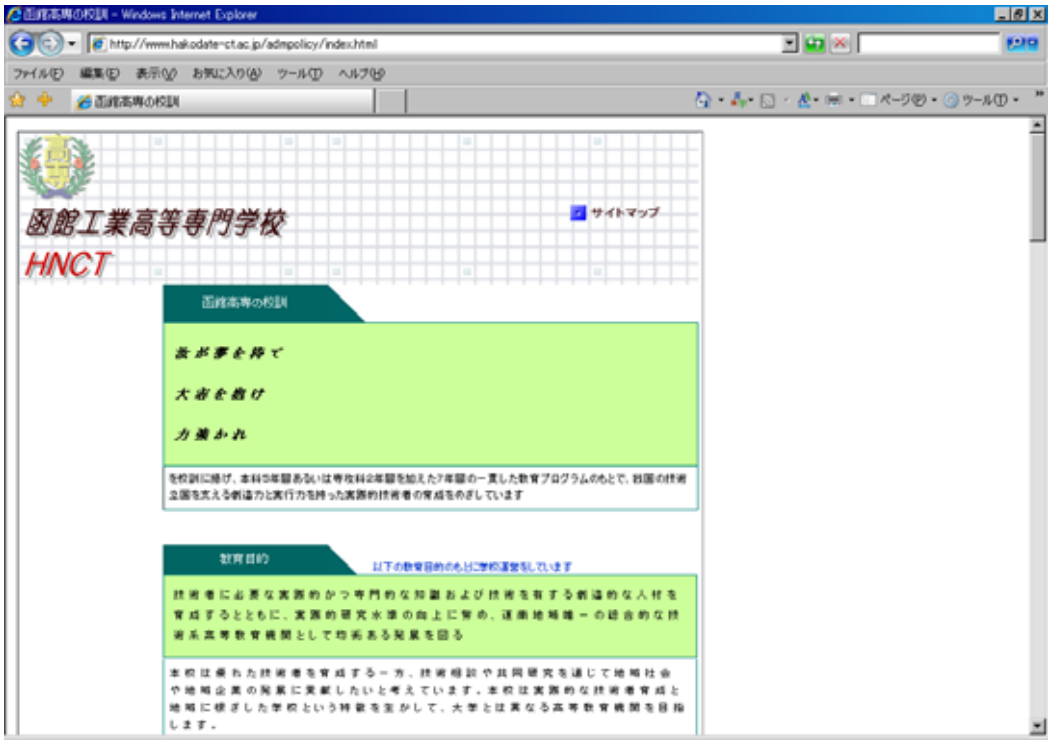
（観点に係る状況）

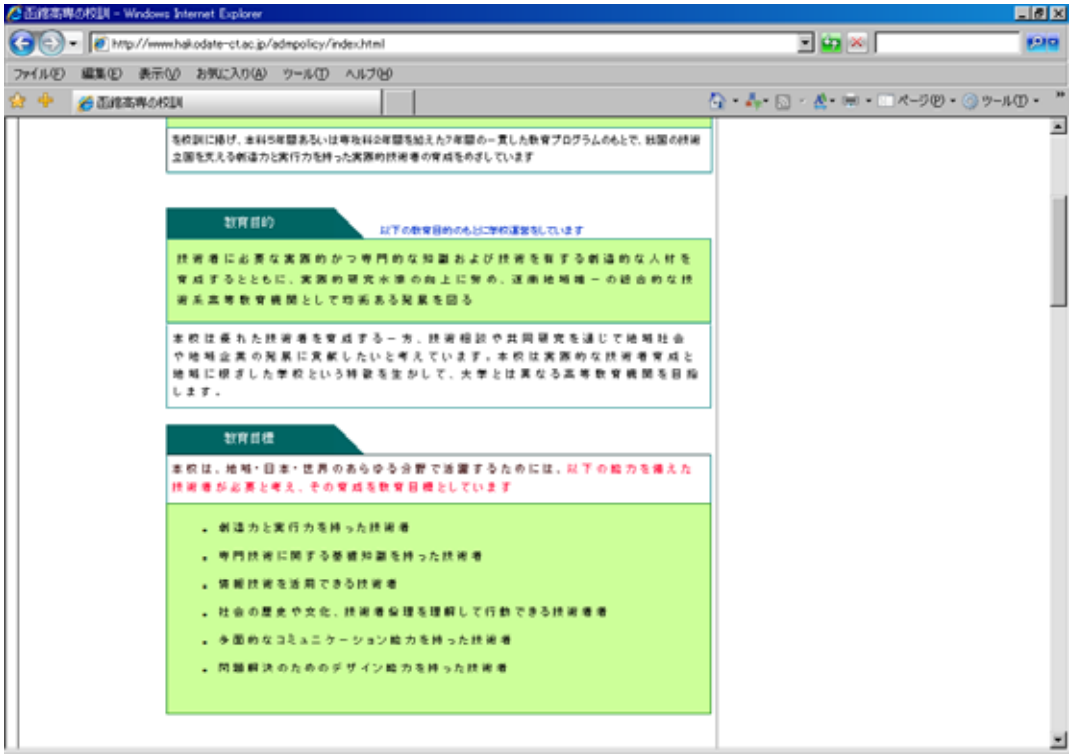
本校の目的等を本校のホームページに掲載したり，近隣地域の中学生を対象とした「学校説明会」や，本校で開催される「一日体験学習会」や「学校見学会」，ならびに個別に学校を訪問する中学生に対して，「学校要覧」や「学校案内」を配布するとともに，学校の目的等の説明を行っている。さらに，卒業生，修了生の主たる就職・進学先である関連企業や道内各大学，行政機関等にも「学校要覧」や「学校案内」等を配布している(資料１－２－②－１～３)。

資料１－２－②－１　「本校ホームページ」

(トップページ)　http://www.hakodate-ct.ac.jp/

(本校の教育目標等)　http://www.hakodate-ct.ac.jp/admpolicy/index.html





(準学士課程の教育目標：機械工学科の例)

http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-m/target/m_target.html

(専攻科課程の教育目標)

http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-senkou/senkouka/adv/adv_05.htm

(出典　本校ウェブページ　)

資料１－２－②－２　「学校要覧」配布先一覧

平成 18 年度「学校要覧」(1,200 部作成)

配布先	配布部数	本校担当部署
全国各高専	６５	総務係
北海道内・函館市内主要大学	１０	総務係
豊橋・長岡科学技術大学	2	総務係
文部科学省	2	総務係
国立高等専門学校機構	1	総務係
文教ニュース社	1	総務係
官庁通信社	1	総務係
函館市(広報課)	1	総務係
函館市内新聞社	4	総務係
名誉教授	３７	総務係
特別功績教員	3	総務係
本校の全教職員	１３０	総務係
道内国立高専合同入試説明会	１３０	入試担当
市内近隣中学校からの PTA 訪問	１５０	入試担当
来客訪問時	２００	総務係・入試担当
就職先・近隣企業	２００	学生係
その他・予備	２６３	

(出典　総務係・学生係・入試担当資料)

資料１－２－②－３　「学校案内 2006」配布先一覧

平成 18 年度「学校案内 2006」(4,000 部作成)

配布先	配布部数	本校担当部署
近隣中学校に配布 函館市内：３１校 道南地区：３７校 その他(札幌・青森等)：１７３校	１，６００	入試担当
市内学習塾(84 校)に配布	１００	入試担当
全教職員に配布	１３０	入試担当
学校説明会で配布	３５０	入試担当
函館市・青森市中学校校長会に配布	７０	入試担当
一日体験学習会で配布	３００	入試担当
道内国立高専合同入試説明会で配布	１３０	入試担当
入試懇談会で配布	６００	入試担当
学校見学会で配布	３００	入試担当
市内近隣中学校からの PTA 訪問時に配布	１５０	入試担当
来客訪問時	１００	入試担当
その他・予備	１７０	入試担当

(出典　学生課入試担当資料)

（分析結果とその根拠理由）

本校のホームページに本校の目的のすべての項目を掲載し，積極的に公表している。すべての項目が掲載された印刷物(リーフレット等)は存在しないものの，主要な項目が掲載されている「学校要覧」や「学校案内」等の資料を「学校見学会」や「学校説明会」等で積極的に配布ならびに説明している。また，主たる就職・進学先等にも配布している。また，平成19年度には，「学校要覧」にすべての項目を記載している。

以上のことから，本校の目的は，社会に対して広く公表されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の教育目標を記載した携帯カードをすべての構成員（学生，教職員，非常勤講師）に配付し，さらにすべてのクラスに対して，学校の目的等の説明会を実施している点などにおいて，目的の周知に学校全体で積極的に取り組んでいる。

（改善を要する点）

アンケート結果によると，本校の教育目標はおおむね学生に周知されているが，本校の目的や準学士課程を卒業するときに身に付ける学科ごとの教育目標について学生の周知の状況が低くなっており，改善すべきである。また，本校の目的等のすべての項目をシラバスや学校要覧などの刊行物にわかりやすく掲載するなどして，学校構成員ならびに社会に対してさらなる周知を図る取組を実施することが必要である。なお，平成19年度「学校要覧」には，本校の目的等のすべての項目が記載されている。

（３）基準１の自己評価の概要

本校では，創立時に学校の使命(学則第１章第１条：本校の目的)を定め，それを現在に至るまで貫いてきている。三つの校訓を掲げ，学校教育法の精神に則った教育目的を設定し，それを実現するための学校の教育目標，さらには課程ごとに卒業もしくは修了時に身に付ける学力や資質・能力を準学士課程の専門学科および専攻科課程ごとに定めることにより，学生が本校において学習する際の具体的な指針を示している。

本校の目的ならびに教育目的は，高等専門学校創設の趣旨および学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものであり，課程ごとの教育目標は学校教育法の規定からはずれるものではない。

教職員(非常勤講師を含む)ならびに準学士課程および専攻科課程の学生に対しても，教育目標が記載された携帯カードを配付するなど，十分な目的等を周知する取組がなされており，アンケート結果からも，目的等が学校の構成員におおむね周知されていることが分かる。

また，本校ホームページや種々の刊行物に本校の目的を掲載しているのをはじめ，学校説明会，一日体験学習会や学校見学会等で目的等を積極的に説明したり，就職進学先の主たる企業・大学等にも刊行物を配付したりするなど，社会に対して広く公表されている。